

函館市子ども会議意見書に対する答え

函館市子ども会議意見書に対する答え

テーマ： **住み心地**

函館市にお願いしたいこと：

「道が整備されていない、街灯も暗くて危険なところがある」ので、

- 交通量の少ない所にも街灯をつけてもらいたい。
- 街灯が設置されているのに電気が消えている事があるので、細かいところの点検や回数を増やしてほしい。

函館市内の街路灯（街灯）には、函館市が設置しているものと、町会等が設置しているものがあり、合わせて約 40,000 灯の街路灯があります。

市では、交通量の多い道路（幹線道路）のほか、交通量の少ない道路でも、交通安全のため、交差点や夜間に事故が多い横断歩道に街路灯を設置しています。

また、住宅街の街路灯は町会等が設置していますが、場所によっては水銀灯や蛍光灯などのあまり明るくない街路灯もあるので、現在、市でも設置のための補助金を増やして LED 灯にするよう進めています。

みなさんが「ここが暗くて危険だ」と思うところがあれば、市役所や町会に話をしてください。みなさんの声でより安全で明るい道路・地域になると思います。

街路灯の点検は市では定期的に行っていますが、細かいところの点検や回数を増やすことは、限られた人数では大変で、費用もすごくかかります。今も街路灯が消えているところを住民の方から教えてもらっていることが多いです。

また、町会等では何回も点検するということが難しく、こちらも住民の方から教えてもらっていますし、消えているところをまとめて取りかえる場合があるので、少し時間がかかることもあります。

みなさんも街路灯が消えていることに気づいたら連絡をお願いします。そうすることで、みなさんも街づくりに協力し参加することができますので、街路灯が消えていたら連絡するということをもっと広めてほしいです。

【担当課：市民部市民・男女共同参画課，土木部維持課，土木部道路建設課】

函館市子ども会議意見書に対する答え

テーマ： **住み心地**

函館市にお願いしたいこと：

「色々な人への援助が少ない」と思うので、

- 多くの人に援助の事を知ってもらってサポートし合えるようにしたい。
- 様々な援助を分かりやすい形で広めてほしい。
- 子どもたちにもできるようなサポートの方法を教えてほしい。
- 学校での認知症サポーターの授業を義務化してほしい。
- 親に対する援助を増やしてほしい。

函館市では、色々な人への様々な支援制度がありますが、多くの人に知ってもらうため、市のホームページや広報紙「市政はこだて」などでお知らせしています。また、支援制度に限らず、暮らしに必要ないろいろな手続きや窓口を紹介する「市民生活のしおり」を市内全戸に配布していますので、みなさんもお家で見たことがあるかもしれません。また、例えば、子育て中の方へは、身近に、手軽に、市の子育て支援情報を見ることができるよう、新しくスマートフォン向けアプリ「Gruccho（グルッコ）」でも情報配信しています。このように、今後も、支援を受ける方にとって分かりやすくお知らせしていきます。

認知症サポーターは、認知症の正しい知識や認知症の方々への接し方を学び、認知症の人を支えて応援する人です。函館市内には小学生から高齢者まで約1万人のサポーターがいますが、もっと増やしていく必要があります。小・中学校では総合的な学習の時間や社会科の授業で、福祉等の学習を行っている学校もあります。全部の学校で認知症サポーターの授業を行うのは難しいですが、介護施設の見学や職場体験学習などいろいろな場面を通じて高齢者や障がい者への理解を深められればと考えます。また、認知症サポーター養成講座は無料で開催していますので、お友達やご家族などを誘って10名以上のグループで市役所にぜひ申し込んでください。

親に対する援助というのは、“ひとり親世帯の方に対する援助”ということでしたね。市では、子育て支援に力を入れていて、様々な種類の支援をしていますが、その中で、ひとり親世帯の方への経済的な援助のほか就職の手助けなどにも力を入れているところです。今後も、市の限られた予算の中で何を優先するかを考えながら、必要な支援について工夫しながら取り組んでいきます。

【担当課：保健福祉部高齢福祉課，子ども未来部子ども企画課，子ども未来部子育て支援課，教育委員会学校教育部教育指導課】

函館市子ども会議意見書に対する答え

テーマ： **交通**

函館市にお願いしたいこと：

「バスの本数が少ない(中心部以外)」ので、

- できる限り、バスの本数を増やしてほしい。
- スクールバスが合併した(恵山など)地域以外に必要な学校はないか調査してほしい。

函館市内を走る路線バスの利用者は、市全体の人口が減っていることや、自家用自動車の普及などにより、ここ20年間で約3分の1にまで減少しています。

利用者が少ない路線で1日に何便も走らせると、バスを走らせるためにかかる費用のわりにお客様が支払う運賃の収入が少なく、結果として赤字となりますから、その路線でバスを走らせること自体をやめてしまうかもしれません。そのため、バスを運行している函館バス株式会社では、利用状況に合わせてバスの本数や経路を決めています。

また、函館市では、将来も路線バスが運行を続けられるように、函館バス株式会社をはじめ、関係する方々と協力しながら、たくさんの方にバスを利用してもらえるような取り組みを進めているところです。

スクールバスについては、通学距離が長距離(小学校は4km、中学校は6kmを超える距離)である場合や、坂道など地形によって長時間(1時間を超える時間)歩かなければならない場合にスクールバスの運行について検討することになりますので、今後も、学校の統合などの状況に合わせて通学状況を調査します。

【担当課：企画部計画推進室公共交通担当課，教育委員会学校教育部学校教育課】

函館市子ども会議意見書に対する答え

テーマ： **交通**

函館市にお願いしたいこと：

「バス・市電の優先席が少ない」と思うので、

- ベビーカーや車イスの人、小さい子供でも気軽に乗れるバスがほしい。
- ユニバーサルデザイン仕様のバス・市電を将来的に全路線に導入してほしい。

バスの出入り口の踏み台が2段あるこれまでのタイプのバスの場合、ベビーカーや車イスを利用されている方、小さい子供にとっては、気軽に乗れない、一人で乗れないことがあると思います。

こうした問題を解決するために開発されたノンステップバスは、出入り口の床面が地面に近いことから、乗り降りしやすいほか、車内には手すりがたくさんついていてイスに座ったり立ったりしやすく、降車ボタンも低い位置についているなど、だれもが使いやすいユニバーサルデザイン仕様となっています。

国では、平成32年度までに、全国で約5万台あるバスのうち、約70%に当たる約3万5千台をノンステップバスにするという目標を定めていますので、バスを運行している函館バス株式会社でも、毎年ノンステップバスを購入し、利用者みなさんが使いやすい環境づくりを進めています。平成29年3月末時点では、221台のうち157台が導入されていて、導入率71.0%と国の目標を超えています。今後増やしていく予定です。

また、ユニバーサルデザイン仕様の市電は「らっくる号」です。らっくる号は、ドアの開閉をメロディでお知らせし、点字による車内案内表示や車椅子やベビーカーの専用スペースなどがあります。現在3両あり、今年度中にもう1両増やす予定ですが、仮に、その4両全てが運行すると、おおまかに4回のうち1回は、らっくる号がやってくることとなります。らっくる号は、価格が非常に高いため、簡単に増やすことはできませんが、今後少しずつ増やしていく予定です。1人でも多くみなさんが市電を利用することで、らっくる号もさらに増やしていけると考えています。

【担当課：企画部計画推進室公共交通担当課，企業局交通部施設課】

函館市子ども会議意見書に対する答え

テーマ： **遊び場**

函館市にお願いしたいこと：

「近所に安全な遊具がない」と思うので、

● **遊具などの遊ぶことのできる敷地を確保してほしい。**

遊具などがある遊ぶことのできる敷地^{しきち}を確保してほしいという提案は、子どもたちの遊び場であり、子どもから大人まで幅広い年代の人達も一緒に^{いっしょ}利用できる公園に係るとても大事なことだと考えています。

現在、函館市内にある公園は、362か所、面積は約605万²m、街に住んでいる一人あたりで計算すると24²mになります。これは、全国平均の10²mと比べると、2倍以上にあたる大きな面積となっています。

みなさんは、小学校高学年や中学生でも楽しめるアスレチックなどがあればいいなという意見でしたね。それは、新しい公園を造ることになり、多くの人^{おとず}が訪れることができるように、街中に敷地^{しきち}を確保しなければなりません、そのために必要な土地を買ったり、住宅^{じゅうたく}など建物もよけてもらったりしなければなりません。土地を持っている人や住んでいる人など多くの関係する人達に協力してもらわなければならない、費用も多くかかることとなりますので、とても難^{むずか}しいと考えています。

そのほかに今、公園にある遊具などは、古くなったものも多くあって、毎年、安全に使えるように点検をしていて、悪いものがあつた場合は、修理・交換^{こうかん}をしています。今後も公園を安全に使用できるよう、取り組んでいこうと考えています。

【担当課：子ども未来部次世代育成課，土木部公園河川整備課】

函館市子ども会議意見書に対する答え

テーマ： **遊び場**

函館市にお願いしたいこと：

「大型商業施設がなく、買い物できない」ので、

◎ 商業施設を増やすためには、人口を増やすことが必要！なので、ツアー企画を増やしたり、有名なものをPRしたりして、函館をアピールしてほしい。

みなさんの言う“大型商業施設”は、規模でいうと大型のアウトレットモールやショッピングモールをイメージしていましたね。確かにそのような施設があると、地元の人も観光客も買い物ができますし、休日は家族で楽しむことができますと思います。

けれども、規模は小さくても魅力的な施設にはお客さんが来ますし、函館市にもそのような魅力ある施設があると思いますので、みなさんにたくさん利用してほしいと思っています。

商業施設を増やすために、みなさんが考えたのは、函館の魅力をPRして函館に住みたいと思う人を増やし、実際に移住してもらおうという作戦ですね。

函館の“観光”については、首都圏や東北地方、海外ではアジア圏で開催される各種イベントでPRしたり、広域観光といって道南の町や青森県の町などと協力して一緒に取り組んでいます。市内イベントでは夏の「函館港まつり」や、秋の「はこだてグルメサーカス」、冬の「クリスマスファンタジー」など住む人も訪れる人も楽しめる多彩なイベントがあります。

また、函館の“食”については、全国各地の、海外では台湾で開催する北海道物産展で豊富な海産物やスイーツなどを販売したり、東京のローソン京橋駅前店内にある函館アンテナショップ『函館もってきました。』では24時間、特産品を販売・PRしています。

さらに、実際に函館への移住を検討されている方のために、移住の相談を受けたり移住後の暮らしをサポートする移住サポートセンターがあります。センターでは専門の移住相談員を配置し、函館生活がより快適で豊かになるよう必要な情報を伝えたり、すでに移住された方などの自らの経験に基づく暮らしのアドバイスを行うためのフォーラム等を開催しています。

このように、これからも様々な形で函館の魅力をPRしていきますが、みなさんも、全国各地を訪れたとき、また、函館を訪れている人などとの多くの出会いの中で、自分が思う函館の好きなところをぜひ伝えてほしいと思います。

【担当課：企画部企画管理課，経済部商業振興課，観光部観光企画課】